

県小研外国語教育研究会

Step by step.

県外研発足元年にあたり

県小研外国語教育研究会長 三好 義宏
(山形市立第五小学校長)

全国英語教育研究団体連合会研究大会山形大会が、令和3年に開催されることを見こして、山形市小学校教育研究会外国語部会長であった高橋守先生の卓越した手腕によって、本研究会発足の礎はつくられておりました。そして、各地区の代表となられた理事の皆様からも、温かいご支援とご助言をいただきながら、令和2年5月28日に、紙上開催となった理事会で、県外研は正式発足の運びとなりました。

初年度として、今年は何ができるのかを示す年でもあったのですが、コロナ禍で難しい研究会運営を強いられた年となりました。整備できたことは、①理事等が山形県英語教育研究会の会員に認められたこと②全英連山形大会運営の協力体制を整えられたこと③山大附属小を会場に研究協議会を開催できたこと④情報共有の会誌が創刊できたこと、があげられます。未成熟の研究会ですので、ご批評をいただきながら、外国語指導の一助となれる会をめざして参ります。

小学校英語教育に望む

東北文教大学・教授 山口 常夫

「外国語教育研究会会報」の創刊、おめでとうございます。

第二言語習得には「言語を円滑に学ぶ能力は幼少期にしか存在せず、成人すると失われてしまう」との臨界期仮説 (Critical Period Hypothesis) があり、早く始めれば身に付くという一般通念に繋がっています。しかし、実際には英語との接触量や学習方法、社会的環境など様々な要因から、今の日本の環境では簡単に英語を身に付けることは容易ではありません。そこで、まずは児童が英語に効果的に触れて使う機会・時間・質・量を担保する学内環境整備が求められます。次に教員には基本的な英語習得理論に基づく適切な指導実践が求められます。

2011年の「外国語活動」必修化に始まり、今回の「外国語(英語)」の教科化に至る間に、児童の英語への関心や学習意欲に一定の成果が出ていることは事実です。今こそオンラインを駆使しての学校間、教師間での授業・情報交換を通して、質の良い授業作りに励んで戴くことを期待します。

山形地区

3年前より市小教研外国語部会を立ち上げ、外国語教育の充実を図っている。

本年度の事業は以下の通りである。

○ワークショップ型研修

主 題：「外国語の授業づくり」

助言者：山形大学 佐藤博晴 教授

○授業研究会（実践発表形式）

授業者：石川史朗 教諭（蔵王一小）

単 元：“What do you want?”

助言者：市教委 田中千絵 指導主事

○講話「新教科書について」

講 師：山形大学 佐藤博晴 教授

○授業づくりプロジェクトチーム

全英連山形大会の授業実演者と共に授業創造並びに児童アンケートを行う。

（文責：三好）



東村山地区

「天童二中学区小中学校の実践」

<天童二中、天童北部小、山口小、津山小の4校で構成>

○令和元年8月より小中連携の方向性を検討。

○令和元年12月に「県外研修」を実施。各小中学校の校長および教員、ALTが仙台市立新田小公開授業研究会に参加。

○二中で英語の授業を公開。ピクチャーカード、フラッシュカードの活用方法を研修。

○CAN-DOリストの内容を共有。

○月1回、各小学校6年の授業に中学校英語教員がゲストティーチャーとして参加。

○小中学校間で、指導案の検討等の事前打ち合わせを随時実施。

（文責：中田）



上山地区

本地区は小中合同で外国語部会を組織し、研究研修活動を行っている。今年度はコロナ禍により、研修会等が全て中止になったが、研究主題に基づき、各学校で実践を積み重ねている。

<研究主題>

他との関わりの中で、主体的に学ぶ児童・生徒の育成（4年次）

<これまでの研修から>

・「小学校英語の本格導入と小中連携の重要性について（講義）」H31.7

・「デジタルコンテンツの効果的な使用方法について（講義・演習）」H30.7

<今後の重点>

小中連携の活性化（例 小中合同授業研）

（文責：石原）

西村山地区

今年度の西村山地区は、新型コロナウイルス感染症予防のために学校教育研究会の活動をすべて中止しました。今回は河北町立西里小学校の授業を紹介します。本校では、児童の主体的な学びを促すために、すべての時間をALTと担任と一緒に外国語の授業を行っています。

この状況を生かして、「モデリングからのアクティビティ」をめざしています。担任とALTで対話をしてみせた後に、ペアで対話をさせています。本時で学ぶ主要な語句を板書することで、表現をなかなか覚えられない児童も、自ら黒板を見ながらアクティビティに参加しています。

（文責：大竹）

最上地区

本地区では、今年度、新たに小学校英語部会を立ち上げた。

しかし、新型コロナウイルス感染症予防のため本部会による研修は実施できなかった。よって、ここでは最上教育事務所主催の「小中学校の連携による英語教育推進事業」を紹介する。

会 場：新庄市立北辰小学校

授 業：第6学年「Unit7 My Best Memory」

講 演：山形大学 佐藤博晴 教授

「新学習指導要領で求められる外国語・外国語活動の授業づくりについて」

参加者：管内小学校教諭7名、北辰小教職員12名（講演のみ参加16名）

（文責：西田）



北村山地区

5/7 小学校外国語部会発足
（部員24名）

* 地区英語部会における小中合同部会が誕生

11/19 小中合同授業研究会での持込授業

会 場：村山市立葉山中学校（64名参加）

指導者：村山市立大久保小学校

第6学年担任 大竹 航 教諭

単元名：My Future, My Dream.

「私の未来、私の夢」

* 来年度入学予定の6年生が現中学1年生に「中学校でがんばりたいことを発表する」を単元のゴールに設定。小中打合わせ等の準備を重ね、単元や授業構想の他、評価や言語活動についても共通理解を図った。児童生徒の英語を使ったやり取りが一番の成果となった。

（文責：高畠）



米沢地区

令和2年11月11日(水)
米沢市学力向上研修会
(於：置賜総合文化センター ホール)

講義・演習

「小学校外国語における学習評価の在り方
～小中連携の観点から～」
(県教育センター 畠中雄紀 指導主事)
コロナ禍で授業研究会等が実施できない中、米沢市教委の主催により本研修会を開催、市内小中の英語担当者が一同に会し受講した。
県指導主事から直接指導を受ける機会は非常に有意義であった。特に学習評価の在り方や小中連携の重要性について認識を深めると共に、小中の構造的な指導において「CAN DO リスト」の作成に対し早急な着手が本市の課題となることを明確にした。
(文責：菊地)



田川地区

田川地区の研修活動は、各市町村教育委員会と田川学校教育研究会の外国語・外国語活動部会がそれぞれに取り組みを進めている。

昨年度までは、三川町教育研究会と田川学校教育研究会の共催で夏季研修会(演習・講話等)を行い、秋に田川学校教育研究会の部員等が提案授業を行う研修会を開催していた。しかし、今年度、三川町教育研究会の機構改編に伴い、共催で行っていた夏季研修会は開催できず、秋の授業研修会のみを予定していたが、新型コロナウイルス感染予防のため中止。そこで、この研修会に替え、2月に、全英研での発表を視野に入れた授業研修会を鶴岡市立朝陽第五小学校で行った。
(文責：阿部)

東置賜地区

1. 研究主体 南陽市教育研究所教育研究会教科等部会(英語部会)
2. 研究主題 「コミュニケーション能力の育成～個に応じた学力充実の手立て～」
3. 研究内容 授業研究会
 - ①期日 令和2年11月24日(火)
 - ②授業者 南陽市立宮内小学校 教諭 竹田千明
 - ③学年学級 南陽市立宮内小学校 5年2組 30名
 - ④单元名 Unit6 What would you like?
 - ⑤助言者 南陽市教育委員会学校教育課
 - ⑥参加者 市内小学校より8名
市内中学校より10名

4. 研究協議

- 山形の名物を選んで、ペアで注文したり、会計したりする学習活動では、子どもたちにとって身近な食材がメニューになっており、興味を持って活動していた。
- 常にALTがいるわけではないということから、今回はあえて学級担任1人での授業提案となり、学ぶべき点が多かった。
- 英語は「教えこみ」ではなく「使いこみ」を大切にすること、指導と評価の一体化をはかることに特に留意し、各校での実践を積み上げたい。
(文責：板垣)



飽海地区

飽海地区では、各中学校区で小中一貫教育を推進している。鳥海八幡中学区では、毎年当番校を決め、授業研究会を開催。研修を深め合っている。

今年度は鳥海小が担当し、10月14日に6年の外国語を公開した。事後研での助言者からの指導は、以下の5点である。

1. 先生と子供が楽しんでいる。
2. 挨拶は曜日や天気も文章で。
3. ゴールを明確にして、評価につなげているところがいい。
4. 小学校は、特にコミュニケーションが大事。生きて使える外国語でありたいし、中学校の英語につなげていきたい。
5. 授業の準備が大切であるが、ALTとの打ち合わせの時間確保が課題である。

(文責：土門)



西置賜地区

今年度は地区としての活動ができなかったため、先進校の実践事例として、長井市立伊佐沢小学校の取組を紹介します。

伊佐沢小学校は平成27年度から3年間文科省の教育課程特例校として、さらに長井市教育委員会の先進取組校として英語教育を推進してきました。

長井市は、市内全小中学校にALTが配置されており、当校に市内の全ALTが一同に訪れ、理科や家庭科・体育や図工などの授業をすべて英語で行うイマージョン授業「ALL・ENGLISH・DAY」に取り組んでいます。今年もハロウィンの時期、新型コロナウイルス感染症に留意しながら、全校生が楽しく活動する姿が見られました。
(文責：菊地)

第1回 県外研 研究協議会 (山形市)

2月10日(水)、山形大学附属小学校において、第1回研究協議会を開催しました。来年度の全英連山形大会を見据え、分科会実践発表者や中学校、高等学校の授業者を招いて、実際の子どもの姿をもとに大会テーマに迫るための話し合いを行いました。

小学校外国語科における協働性とは何か。深い学びを実現するために、子ども自身が探究したいと思う目的・場面・状況設定をどうしたらいいのか。子どもの姿から参会者が感じたこと、考えたことを意見交換することで、小学校外国語科で目指すべき子どもの姿がはっきりとしてきました。また、小学校から高等学校までの外国語科の学びの系統性についても議論が交わされたことで、各校種におけるゴールの姿を共有することができ、大変有意義な会となりました。

第71回 全英連山形大会

テーマ 「Explore! 未来を切り拓く英語教育の推進 ~自ら学び仲間と高め合う授業の創造~」をコンセプトに、小学校段階から高校卒業段階までを見通した学習の指導の「系統性」に加え、英語の授業における深い学びを実現するための「協働性」と「探究性」の在り方を考える。

期日 令和3年11月19日(金)・20日(土)

会場 大会初日 県総合文化芸術館 (やまぎん県民ホール) 大会2日目 山形大学小白川キャンパス

日程

| | | | |
|-------|--------------------|---|---|
| 大会初日 | 午前：記念講演 午後：授業実演 | 上智大学 教授 山形大学附属小学校 | 吉田 研作 氏 佐藤 大将 教諭 |
| 大会2日目 | 午前：分科会 (発表予定者) | 大江町立本郷東小学校 川西町立小松小学校 鶴岡市立朝陽第五小学校 山形大学附属小学校 | 渋谷 洋之 教諭 星 なつみ 教諭 市川 道子 教諭 本間 鉦 教諭 佐藤 大将 教諭 |



令和2年度 山形県外国語教育研究会役員名簿

| | | | | |
|---------|---------------------|---------------------|-------------------|-------------------|
| 会 長 | 三好 義宏 (山形市立第五小学校) | | | |
| 副 会 長 | 中田 敦 (天童市立長岡小学校) | | 菊地 一栄 (長井市立平野小学校) | |
| 地 区 理 事 | 山 形 | 三好 義宏 (山形市立第五小学校) | 米 沢 | 菊地 泰志 (米沢市立愛宕小学校) |
| | 上 山 | 石原 敏行 (上市市立西郷第一小学校) | 東置賜 | 板垣 健 (南陽市立赤湯小学校) |
| | 東村山 | 中田 敦 (天童市立長岡小学校) | 西置賜 | 菊地 一栄 (長井市立平野小学校) |
| | 西村山 | 大竹 純 (寒河江市立西根小学校) | 田 川 | 阿部 敬子 (三川町立横山小学校) |
| | 北村山 | 佐藤 義紀 (村山市立富並小学校) | 飽 海 | 土門 敦 (酒田市立鳥海小学校) |
| | 最 上 | 西田 浩 (金山町立金山小学校) | | |
| 顧 問 | 畠中 雄紀 (山形県教育センター) | | | |
| 監 事 | 石原 敏行 (上市市立西郷第一小学校) | | 土門 敦 (酒田市立鳥海小学校) | |
| 幹 事 | 色部 正俊 (山形市立第五小学校) | | 海谷 真記 (山形市立楯山小学校) | |
| | 槇 正智 (山形大学附属小学校) | | | |